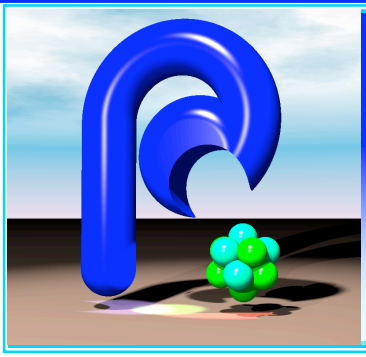

独立行政法人 理化学研究所

第５回 原子核グループ月例コロキウム

The 5th RIKEN Nuclear Physics Monthly Colloquium

陽子スピンの謎を追って

延與　秀人

延與放射線研究室
主任研究員

Abstract

１９９０年初頭、フェルミ研究所で、偏極ビームを用いて実験を行っていた我々の実験チームは、幾つかの興味深い偏極現象を発見したものの、物理のインパクトになにか歯がゆい思いをしていました。そこで書き上げた実験提案書が、「陽子のスピンパズル」すなわち、クォークのスピンが、陽子のスピンの２０～３０％しか担っていないという問題に真っ向から挑戦するものでした。この提案書は業界人からは高く評価されたものの、残念ながらフェルミ研究所では不採択となってしまいました。

やけになった我々は、ＢＮＬ研究所のＲＨＩＣ衝突型加速器を偏極させるという気宇壮大な計画を立案することになります。この計画は当時放射線研を率いていた石原主任に評価され、最終的に、理研とＢＮＬの協定に基づき、１９９５年にＲＨＩＣ偏極陽子計画がスタートします。１９９７年には理研ＢＮＬ研究センターが立ち上がり、研究体制が確立します。

それから１０年、はじめの着想から１５年を経た２００５年、我々はこの問題の最初の答えを与えるべきデータを得ました。コロキウム当日、報告させて頂きます。

2005 年 11 月 1 日　15:00–
和光キャンパス　仁科ホール

お問い合わせ：
核物理セミナー委員会
担当：谷田聖
npsoc@rarf.riken.jp